

ビワ生育情報

千葉県
平成29年12月号

平成29年11月の気象

平成29年11月の半旬別の気象を表1に記した。平均気温は、第4及び第5半旬を除く4半旬で平年より高かった。月平均気温は13.6℃で、平年より0.4℃、前年より1.7℃高かった。

降水量は、第1、第3及び第5半旬では平年より多かったが、その他の3半旬では平年より少なく、第6半旬では降雨がなかった。月合計は289mmで、平年の195%、前年の155%であった。

日照時間は、第1、第2及び第5半旬で平年を上回ったが、その他の3半旬では平年を下回った。月合計は156時間で平年の108%、前年の128%であった。

表1 平成29年11月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	16.1	15.4	13.3	33	25	20	38	25	22
2	17.4	14.6	11.9	10	34	10	27	25	28
3	14.3	14.0	14.2	90	18	57	23	24	16
4	10.3	12.3	13.1	16	23	54	16	24	26
5	10.4	11.7	9.7	141	22	32	33	24	14
6	12.9	11.2	9.6	0	26	15	19	25	16
平均/計	13.6	13.2	11.9	289	148	186	156	145	122

1月の作業（花房の発育は次ページ）

ビワは、厳寒期に入ると枝葉の伸長及び根の活動は停滞するが、開花は引き続き進行し、幼果はわずかながら肥大する。本年は、開花の進みが平年より早く、寒害を受けやすいと考えられるため、寒害には十分注意する。1月は春からの本格的な果実肥大に備える追肥時期である。

苗木の植え付け

ビワの苗木の植え付けは、発芽直前で根の活動が緩慢な時期が良く、通常は2月中下旬が適期であるので、準備は早めにしておく。枝や根の伸長が始まってからでは、植え傷みが激しく、発芽が遅れるので、天候や苗の発育をみて時期を逃さないようにする。

寒害対策

ビワの幼果は、-3℃以下の低温に遭遇すると、胚(種子)が凍死し、生育が止まり落果してしまう。蕾あるいは開花中の花は寒害を受けにくいですが、受精後は幼果の発育が進むにつれて凍死しやすくなる。本年の開花の進みは平年より早いので(表3)、寒害を受けやすいと考えられる。開花が終了する1月上旬頃からは寒害対策が必要となってくる。

ビワの寒害は大陸性高気圧のもたらす寒波によって引き起こされる。本格的な寒波は1月中旬から3月上旬の間に数回襲来する。この時期の寒害対策としては、ビワ園を防寒して寒害を回避する必要がある。幼木園では、こも等の被覆資材で樹体を覆う方法、あるいは枝同士を結束する方法が効果的である。成木園では、園内をヒーターで加温して寒害を防止する。寒波が襲来する前に、火点設置場所の整備と点火及び燃料の準備をしておく。

施 肥

時期別の標準施肥量は表2に示した。果実の肥大及び春枝の発芽、伸長のための追肥は、春肥または実肥と呼ばれ、1月中に施用する。ビワの根は冬期もわずかながら伸長しており、2月下旬には活発になる。春肥はこの時期に合わせて施すのが一般的で、年間施肥量の30%程度を目安に施用する。土壌pHが低い場合には、苦土石灰などの石灰資材を施用し、pH6.0～6.5に矯正する。

表2 ビワの時期別標準施肥量（成分量 kg/10a）

時 期	耕土の浅い園			耕土の深い園		
	窒素	りん酸	加里	窒素	りん酸	加里
9月上旬（基肥）	12	9	9	11	9	7
1月中旬（春肥）	10	9	5	7	8	3
6月上旬（夏肥）	5	4	4	5	3	3
合 計	27	22	18	23	20	13

（千葉県主要農作物等施肥基準より）

管理上の留意事項

1. 土壌pHは6.0～6.5に矯正する。
2. 苦土石灰は、化学肥料施用の2週間前に施用し、その後耕うんする。
3. 施肥後は軽く耕うんする。ただし、夏肥施用後は、その必要はない。
4. 有機物は積極的に投入する。有機物の深層施用には必ず完熟堆肥を用いる。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表3に示した。

暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月5日で、平年及び前年より4日早かった。「大房」が11月19日で、平年より6日早かったが、前年より1日遅かった。「田中」が11月6日で、平年より7日、前年より5日早かった。

開花盛期は、「楠」が11月23日で、平年より4日、前年より3日早かった。「田中」が11月22日で、平年より13日、前年より11日早かった。

12月1日現在、「大房」は開花盛期、「楠」及び「田中」は開花終期に至っていない。

花房の出蕾は平年並みであったが、11月の気温が高かった影響で、開花の進みは平年より早い。8～10月の日照不足の影響で樹及び花房の生育はやや悪い。また、10月下旬の台風通過後に潮風害を被り、落葉がみられた樹は樹勢の低下が著しい。そのような樹は花房数を少なくし、樹勢の回復を図る。

表3 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 5	11. 9	11. 9	11. 23	11. 27	11. 26	—	12. 26	12. 19
大 房	11. 19	11. 25	11. 18	—	12. 19	12. 13	—	1. 28	1. 9
田 中	11. 6	11. 13	11. 11	11. 22	12. 5	12. 3	—	1. 9	12. 27

平年：1987年～2016年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>